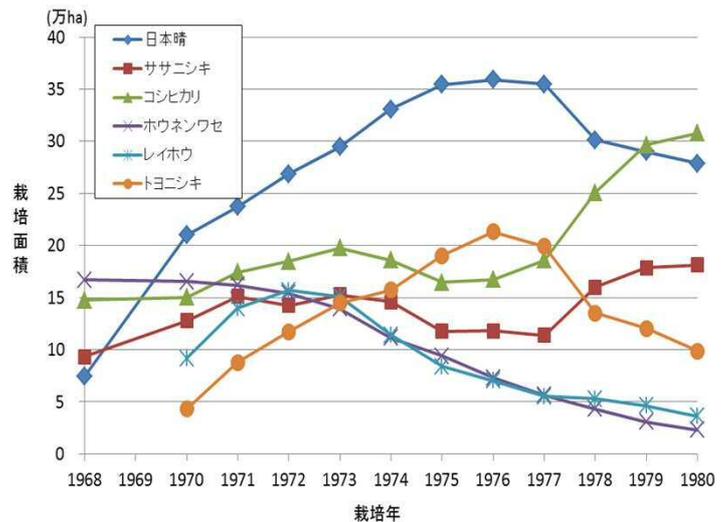




# 栽培面積9年連続日本一！ 昭和の超大物品種「日本晴」



愛知県で開発された品種「日本晴」



主要品種の栽培面積の推移  
(1968～1980年)

(作物研究所開発)

## 背景

国内の水稻栽培は、1960年代になると化学肥料の利用や機械化が進みました。そのため、試験場では、このような近代的な水稻栽培に適した品種の開発を行いました。

## 成果の内容

1963年に試験場で育成した「日本晴(にっぽんばれ)」は倒伏に強く、機械化栽培に適した草型で、多収の品種です。また、いもち病、白葉枯病などの病気に強く、米はあっさりとしたうま味があります。このような優れた性質から、東は福島県から西は宮崎県まで全国31府県、最大35万9,014 haに作付けされ、1970年から1978年まで9年間、栽培面積が全国1位となりました。

## 愛知県農業への貢献

「日本晴」は「コシヒカリ」、「ササニシキ」と並んで、当時のビッグスリーと言われました。その後、栽培面積は減りましたが、「あいちのかおりSBL」など多くの品種の親として利用されるとともに、ゲノム解析などに利用され、国際的なイネ研究の標準品種として用いられています。

(作物研究部)